

26年1月分

製品市場の荷動き・価格先行き動向調査

1. 調査実施期間 平成25年 12月20日～ 26年1月10日

2. 調査実施方法

全国の製品市場に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。
1月分の回答企業数は5社である。

3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

Weight.D.I.(ウェイト・ディフュージョン・インデックス)=[(「増加」の評価を行った回答の割合)×2+(「やや増加」の評価を行った回答の割合)-(「減少」の評価を行った回答の割合)×2-(「やや減少」の評価を行った回答の割合)]÷2
したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

4. 調査結果の概要

(1) 荷動き動向 Weight. D. I.

品目		26/1月	2月	3月
入荷動向	国産材製材品	△ 30.0	△ 10.0	0.0
	外材製材品	20.0	10.0	10.0
	その他	0.0	0.0	0.0
販売動向	国産材製材品	40.0	20.0	20.0
	外材製材品	20.0	20.0	20.0
	その他	0.0	△ 50.0	△ 50.0
在庫動向	国産材製材品	△ 60.0	△ 30.0	△ 20.0
	外材製材品	12.5	12.5	12.5
	その他	—	—	—

国産材製材品の入荷は1,2月の減少が3月には横ばいに、外材は増加傾向で推移。

国産材及び外材製材品の販売は増加傾向で推移。

国産材製材品の在庫は減少傾向で推移、外材は増加傾向で推移。

(2) 価格動向 Weight. D. I.

品目		26/1月	2月	3月
スギ	柱角 KD10.5×3	60.0	40.0	20.0
	柱角 KD12×3	60.0	40.0	20.0
	通し柱 12×6	50.0	33.3	0.0
	桁角	37.5	37.5	0.0
	母屋角	50.0	40.0	0.0
	タルキ	40.0	30.0	10.0
	間柱	50.0	30.0	10.0
	加工板	37.5	25.0	0.0
	ヌキ	40.0	30.0	10.0
	平割	40.0	30.0	10.0
ヒノキ	柱角 KD10.5×3	60.0	30.0	10.0
	柱角 KD12×3	60.0	30.0	10.0
	土台角 10.5×4	70.0	30.0	10.0
	土台角 12×4	70.0	30.0	10.0
	通し柱 12×6	50.0	25.0	0.0
カラマツ土台角10.5×4	—	—	—	
米マツ平角	62.5	50.0	25.0	
米マツ割物	62.5	50.0	25.0	
北洋エゾマツタルキ	0.0	0.0	0.0	
北洋アカマツタルキ	0.0	16.7	16.7	

スギ製材品価格は総じて1,2月の強含みないし強保合が3月には横ばいしないし、やや強保合に。

ヒノキ製材品価格は総じて1,2月の強含みないし強保合が3月にはやや強保合でないし横ばいに。

米マツ平角及び割物は強含みないし強保合で推移。

北洋エゾマツタルキは横ばいで推移、北洋アカマツタルキは1月の横ばいが2,3月はやや強保合に。

モニターからのコメント

・東北のスギ製材品が入荷、外材製材品は円安で入荷。販売動向は国産、外材製材品とも単価は1割アップ、1月は初市に向け国産材、外材とも在庫増加。スギ10.5KD柱角は5,000円/m³アップの65,000円/m³、同桁、母屋、タルキ、間柱、加工板、ヌキ、平割とも3,000～5,000円/m³アップ。ヒノキKD柱角、KD土台角の売値は95,000～100,000円/m³。米マツKD平角は5,000円/m³アップの70,000円、同KD割物は5,000円/m³アップの65,000円/m³の売値。北洋アカマツタルキは入荷増で単価横ばい。・スギ、ヒノキ製材品は入荷減少傾向続く、外材は供給量安定しているが一部品薄材も出ている。販売は国産材製材品はやや増、外材は円安による今後の先高感から増加傾向。国産材は入荷と同時に売れてしまい在庫減、外材は今後入荷減が予想され減少傾向。スギKD柱角は相変わらず入荷少なく先月に引き続き高値推移、同桁、母屋はグリーン材の入荷増えているが高値推移、KD材は入荷も少なく強い、同タルキ、ヌキ、平割等羽柄材についても原木高で価格上昇。ヒノキKD柱角は先月の「上昇」から「やや上昇」に、同土台はグリーン材の入荷増えているがKD材は入荷少なく引き続き上昇。米マツ平角は大手工場の円安による値上げにより上昇、同割物も今後の輸入価格上昇により強含み。北洋アカマツタルキは荷動き良好、価格も円安により上昇傾向に。北海道トドマツサンギは原木不足により入荷減少、原木価格上昇と首都圏での需要もあって価格上昇傾向。・スギ、ヒノキ製材品の急激な値上がりのためプレカット工場は外材製材品への樹種変更が始まる。販売は平常に戻ってくる様子。在庫はまだ増えないが、後は増加と予想。メーカーにより価格差大きく、後は流動的。

・国産材製材品の品不足は致命的、平年並みの入荷あるも全く足りない。外材への移行始まっており外材比率アップと予想。国産材製材品の引き合い多いが入荷不足で思うほど売上増にならない。国産材製材品の在庫ほぼゼロになってきた。スギ製材品は物不足で毎月値上げしている、特に10.5角が足りない。通し柱は元々専門業者しか製材しておらず供給不足で全く足りない。桁は比較的安定していたが150～210幅の値上げ幅大きく、品不足。母屋は値上げ幅最も大きく、入手も困難な状況。間柱はこのままではWWに変わる物件も出そう。ヒノキの柱、土台は全て足りない。原木も高止まりで高値安定。1カ月待っても入荷せず。

・需要減に伴い市場在庫は増加の見込み。国産材KD及びAD材は暫く品薄続くと思われるが、グリーン材は余ってくる可能性大。各プレカット工場は2月末～3月初めまでフル稼働とのこと、3月中旬以降少し弱含み。製品確保は一段落すると予想。外材は、ほとんど仕入れ品のため入荷、販売及び在庫とも大きな変化なし。スギ及びヒノキ製材品は、プレカット工場がある程度製品を確保し供給に少し余裕の兆し、素材の値動きにもよるが3月以降下げの可能性。KDより先にグリーン材が値下がりすると予想。1月